

私たちの町議会 りくべっ

No. 110

発行月日・令和4年11月18日
編集・議会運営委員会
発行・北海道陸別町議会

9月定例会

陸別町議会9月定例会は、9月6日から13日まで、その内の3日間開かれました。今定例会では、委員の選任2件、条例案2件、補正予算案3件、意見書案1件を可決し、令和3年度決算全7会計を全て認定し、閉会しました。

高齢者世帯等への生活支援として1万2千円を支給 《住民税非課税の高齢者世帯及び障がい者世帯が対象》

● 高齢者世帯等

生活支援事業

276万円

原油価格の高騰等により、光熱費や食料費等、様々な支出が増加している一方、年金など収入が定額で固定されている世帯が中心である高齢者及び障がい者世帯は、特にその影響が大きいと考えられることから、道の補助を受け、影響緩和を行うことを目的に支援金を支給する。

令和4年度住民税非課税世帯の高齢者世帯及び障がい者世帯（生活保護世帯を含む）に、1世帯当たり12000円を支給する。
申請期限は、令和5年2月末日まで。

補正予算質疑から



Q 原油価格高騰対策として、230世帯を見込んでいますが、この支援金の支給対象者の高齢者世帯

とは、65以上の高齢者を含む世帯なのか、65歳以上の高齢者のみの世帯なのか。また、障がい者支援施設入所者も対象となるのか。



A 65歳以上の高齢者のみで構成する世帯と、身体障がい者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳が交付されている住民税非課税世帯が対象。
施設入所者については、対象から除外されている。

令和4年度 各会計補正予算

会計名		補正額	総額
一	一般会計	2,063万円	52億5,840万円
特別会計	国保直診勘定	490万円	3億5,477万円
	介護保険事業勘定	1,307万円	3億2,323万円

令和3年度 各会計決算を認定

～ 主な質疑・答弁 ～

9/13

● 鹿による農業被害

Q 鹿の食害による畑の被害で壊滅的な圃場もあるため、ハンターひとり当たりの捕獲頭数を増やしたり、雇用対策事業で鹿柵の維持管理、電柵柵の設置助成などの対策をとって、農業被害を減らす考えはないか。



▲ 畑を荒らす鹿 (イメージ画像)

A 捕獲頭数については、地元猟友会と協議して検討していきたい。鹿柵の今後のあり方についても、今後協議する予定になっている。

雇用対策の関係は、いろいろの方策はあると思うので、今後の検討課題とさせていただきます。

● 地域活性化推進事業

Q 地域おこし協力隊が途中で退職しているが、退職に至る理由について意思表示して辞めているのか。また、今後の改善に資するような意見などの分析が進み、次に繋がるような仕組みになっているのか。

A 自己都合で退職しているが、本人の意とするもの、何が原因かなどを詳細に聞き取って記録しており、それらを反映しながら募集を行ってきたい。

● 緊急車両出動状況

Q 令和3年の消防車及び救急車の出動状況及び出動種別と、搬送先医療機関の方面別の件数について伺う。

また、コロナ感染症関連の救急出動については、どのような状況になっているのか。

A 出動件数は1222件で、火災件数は建物火災1件と車両火災1件となっており、急病が55件で全体

の4割強を占める。診療所から他の医療機関への移転搬送が45件、一般負傷が12件、交通事故5件、その他となっており、町内医療機関は54件で約4割、北見医療機関38件で約3割、残る3割が足寄及び帯広医療機関への搬送となっている。

令和3年は新型コロナウイルス感染症関連の出動はなかった。令和4年は、本日まで11件あり、保健所の指示で直接帯広の医療機関へ搬送している。



令和3年度 各会計の決算の状況

(単位：万円 千円以下端数処理)

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引余剰金	繰越明許費繰越額	一般会計からの支援額	実質に近い収支
一般会計	57億1,116	56億739	1億377	209	0	1億168
特別会計						
国保事業勘定	4億384	4億274	110	0	0	110
国保直診勘定	3億3,857	3億1,786	2,071	0	1億4,018	△1億1,947
簡易水道事業	1億9,622	1億9,176	446	0	5,833	△5,387
公共下水道事業	1億3,108	1億2,920	188	0	3,691	△3,503
介護保険事業勘定	3億2,041	3億883	1,158	0	0	1,158
後期高齢者医療	4,765	4,649	116	0	0	116

9月定例会では3人の議員が一般質問を行い、町政を問いました。その内容を要約して掲載します。

一般質問

畜産経営の持続化対策を問う

久保 広幸 議員

問 現在、畜産経営においては配合飼料や肥料など、生産資材価格の急騰等によって、事業の継続に重大な影響が出ている。

国は農産品の生産コスト削減を目指し、支援金の枠組みを創設しているが、それだけでこの苦境から脱却できると考えるのか。

町長 配合飼料や肥料については、その多くを輸入により調達しているため国際情勢に影響を受けており、生産コストの増加はかつてない状況と認識している。国と道、そして生産者団体も支援策を打ち出しているが、けつして楽観できるものではない。

町としては、資金融通等の支援を予定しているが、更に、農協とも協議しながら5年末に向けて追加の支援を行うべく準備を進めたい。

問 現在の畜産経営を取り巻く環境では、今後本格的な操業になるであろうバイオガスパラントの経営において、構成する農家にはこれまでに示されている以上の負担を求めるとは難しいものと考えます。

経営する2社に出資する町として、このプラントの安定経営には極めて難しい局面が考えられるのではないかと。

町長 バイオガスパラントは当町における脱炭素の取り組みの中核であり、循環型農業を推進するうえで非常に重要な事業である。農業者の負担を抑えつつこの事業を安定的に進めるためには、町と農協が一体となって支えて行かなければならない。当町の産業と自然環境を守るため、必要な支援を惜しまずに行う。

バイオガスパラントは当町における脱炭素の取り組みの中核であり、循環型農業を推進するうえで非常に重要な事業である。農業者の負担を抑えつつこの事業を安定的に進めるためには、町と農協が一体となって支えて行かなければならない。当町の産業と自然環境を守るため、必要な支援を惜しまずに行う。

物価高騰に対応した生活支援を

問 国は、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分の地方創生臨時交付金に関する活用可能な事業を例示している。

燃料費高騰の負担軽減について、当町が既に実施している冬季生活支援事業の助成額1万円では少額過ぎる対応できないと思うが。

町長 予定する高齢者世帯等生活支援事業の予算額276万円のうちの町単費については、臨時交付金の第3回実施計画提出の際に追加で申請する。また、今年度のプレミアム商品券発行事業については、額面での商品発行額として1億1540万円を予定しており、衣料品、食糧、燃料の購入など様々な用途の利用が可能で、同時に、停滞する町内経済への効果も期待している。

国は、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分の地方創生臨時交付金に関する活用可能な事業を例示している。燃料費高騰の負担軽減について、当町が既に実施している冬季生活支援事業の助成額1万円では少額過ぎる対応できないと思うが。町内では、電気、燃料、資材の高騰など、今後も維持管理費の増加が想定される。町の公衆浴場の入浴料金は、知事が指定する北海道公衆浴場入浴料金統制額に合わせており、今後の改定状況を注視している。その他の公共施設については、維持管理経費の縮減に努め、燃料費高騰等の理由による値上げは、現在のところ考えていない。しかしながら、先の見えない状況下で、今後大幅な維持管理費の増大が生じた場合には、改めて対応等を検討したい。

問 燃料価格の高騰などを理由に、公衆浴場の入浴料金など、公共施設の利用料等の値上げが検討されるなどの具体的な動きが出てきているが。

町長 町内の公共施設については、電気、燃料、資材の高騰など、今後も維持管理費の増加が想定される。町の公衆浴場の入浴料金は、知事が指定する北海道公衆浴場入浴料金統制額に合わせており、今後の改定状況を注視している。その他の公共施設については、維持管理経費の縮減に努め、燃料費高騰等の理由による値上げは、現在のところ考えていない。しかしながら、先の見えない状況下で、今後大幅な維持管理費の増大が生じた場合には、改めて対応等を検討したい。





ここが聞きたい

町道の危険箇所への安全対策を

渡辺 三義 議員

問 平成29年に寄付を受けた、旧金石商店の土地については、現在駐車場として利用し、地形的に見てくぼみがあり面積も狭く、景観もそこねている。この辺一帯を盛土で整地することにより、広い面積の中で多目的に利用する考えはないか。

町長 隣接地に民地と取付道路などがある。また、盛土で整地するには、擁壁等も設置する必要があり、多額な費用を要することから、今は考えていない。

問 車両センター横の町道東1条5丁目通りは、現在、隣接地に5軒の民家があり、東1条伸通りとの交点下の字の部分は、下り坂で両側には擁壁があり、左右の見通しが悪く、手前には通学路があるため、危

険度が高いものと思われる。よって、この道を行き止まりとして、一角に歩行者用の階段等を設ける考えはないか。

町長 令和元年7月に釧路行政監視行政相談センターの照会により、擁壁により見通しが悪く歩行者や運転手がお互いに確認できる位置に、新たにカーブミラーを設置して、既に改善措置を講じている。行き止まりにすることによって、道路を利用する方の利便性が悪くなる。また、埋設している水道下水道の管理の面からも非常に難しいものと考えている。

問 中学校前を走る構内入口付近の危険度が高く、急な坂地と道路が狭く安全確認がしづらい。特に冬は

スリップ等で危ないため、交通量も多くないことからこの出入口を封鎖して、一般車両の通行が出来ないようにしてはどうか。

警 出入口を封鎖することとは、学校側としても大変ありがたいとの声がある。しかし、周辺住民にとっては、遠回り等のデメリットも懸念されることから、今すぐ止めることは難しく、今後も通行車両への注意喚起を図りながら、安全対策に努めていきたい。

問 元町に架かる陸別橋は、建設されて約50年が経過し老朽化が進んでいる。また、新町側からの橋の入口付近は、きつい角度であり、特に冬季の危険度は高いものと思われる。

よって、陸別橋の架け換え工事を行う際には、下流側に位置を変え、新町側からの出入をゆるやかにするように検討してほしい。また、この橋の

長寿命化計画における調査結果について伺う。

町長 北海道が実施している、利別川改修計画において、陸別橋を架け替えする予定はない。

陸別橋は、これまでに3回の橋梁点検を実施し、判定区分は早期措置段階の3と診断されている。令和2年に補修設計を行い、令和5年度の補修工事着工に向けて、現在、国へ要望中である。



▲ 急なカーブと狭い道幅が続く（陸別橋）

合葬墓建設の詳細を問う

谷 郁 司 議員

問 少子高齢化や核家族化が進展している中、やむを得ない事情により、お墓の継承や維持管理が困難な方、経済的に墓を建立

することができない方々のために、合葬墓を町が建立することは既に決定しているが、今後の建設までのスケジュールと、墓石碑名及び祭壇、墓誌板の設置は考えているのか。



▶火葬場に向かう途中の旧陸別保育所跡地に建設予定

墓石碑名は、陸別にふさわしい名前を検討したい。また、供花、供物等が置ける程度の祭壇は設置するが、墓誌板の設置は考えていない。

問 無縁の方の焼骨埋葬について、生前での予約を付ける考えはないか。また、墓じまいをされる方の遺骨を合葬墓で受け入れる考えはあるか。

町長 無縁であったも、何年後かに関係者が判明することもあるため、納骨埋葬の事前予約はしない。また、墓じまいに関しては、陸別町民の他に元町民の方、親族が当町に在住されている方など、一定の条件は必要となるが、遺骨は受け入れることにしたいと考えている。

問 合葬墓の管理運営（供養祭等含む）を陸別町社会福祉協議会に依頼する考えはないか。また、町民等への周知方法及び利用を促すための案内資料は作成するのか。

町長 設置後の管理等については、今後関係機関と協議していきたい。供養祭については、町営で設置する施設であるため、

宗教的な儀式は納骨の際は可能だが、町内仏教会との協議の中で、合葬墓の前での宗教的な行為は行わないよう要望が出されている。周知については、しかるべき時期に町内回覧、広報、自治会長会議等で周知していきたい。また、案内資料を作成し、町の窓口に配置して説明できるようにしていきたいと考えている。

問 合葬墓を設置するに当たっては、現在の陸別町墓地火葬場管理条例を改正して行うのか。それとも別に条例を作成するのか。また、最近の墓じまいに係る件数はどのくらいあるのか。

町長 合葬墓の設置については、現行の条例の一部改正若しくは全部改で対応したいと考えている。直近の墓じまいに関しては、令和3年度6件、令和4年度は、これまでに3件行われている。

員会行政視察報告

広域型特養とユニット型地域密着型特養の併置について

総務常任委員会

委員長 谷 郁司

去る10月4・5日、先進地の視察研修として上川町と伊達市を訪れました。

初日の4日は上川町の社会福祉法人が運営する特別養護老人ホーム大雪荘における介護保険事業の運営について、現在当町で進められているユニット型個室の特養の建て替えに資する研修を行ってきました。訪れ



▲ 施設長による事業内容説明

た上川町は、人口規模としては当町よりも千人以上多く、要介護認定者数も2倍ほど居られますが、町内唯一の特養を定員50人で運営されているということで、広域型特養30床とユニット型地域密着型特養20床を併置する運営形態について大きな関心を持ちました。

この形態を選択するに至った理由としては、地元人口減少に伴い、介護認定者数も大きく減る見込みであることから、都市部では入所施設が増えていることであつて、既に利用者の「奪い合い」の状況になつていて、定員規模を拡大しても、将来的には利用者の確保が難しいと判断したということでありました。これが、地方で運営する特養の形態の一つになるのではないかと、その様に受け止めております。

木質ペレットを利用した

温水プール

10/5

令和4年度教育行政執行

▲ 伊達市の温水プール視察



とトレーニング室を視察しました。

平成24年7月に10億円（社会資本整備総合交付金）を基に着工し、平成26年4月にオープンしている。温水プールの暖房エネルギーは、木質バイオマス（ウッドペレット）を使用し、CO₂対策に取り組むとともに、原材料は同市大滝区より、安定的に供給が受けられる体制がとられていた。

方針において、スポーツ施設の計画的な整備等については、陸別町教育施設長寿命化計画に基づき進められ、特に町民水泳プールの改築は最優先課題と位置付けられている。

また、当町の町民プールの改築に関しては、議員の一般質問でも取り上げられ、プールとトレーニング室の併設が望ましいのではないかとこの意見も出されていたこともあり、今回、伊達市総合体育館内の温水プール

複数のトレーニング系の運動機器を備え、体力診断器も設置して、住民の健康管理に努め、プールサイドには数人の監視員が居て、平日でも多くの市民が利用されていた。また、運営は指定管理者によるNPO法人等が行い、プール・トレーニング室の利用料金（120～500円）は、1回券の他にも、回数券や定期券（割引有）を発行し、利用者ニーズに対応した施設でした。

総務・産業常任委



▲ オホーツク自動車道の建設現場

町発注工事の通学橋の橋梁補修工事を10月13日の午前中に視察し、午後からはオホーツク自動車道小利別陸別間の2ヶ所の工事現場を視察しました。当日は、帯広開発建設部より職員4名の方に来町して頂き、現場で工事の進捗状況や施工状況等の説明を受けました。

町内工事状況と脱炭素カーボンニュートラルの取組みを視察し、上士幌町・鹿追町の先進事例を学ぶ
産業常任委員会
委員長 渡辺三義

特に、十勝オホーツク自動車道や、今後着工予定の陸別足寄間における高規格道路ネットワークについての考え方や意見交換を行いました。大変意義のある視察となりました。

先進地視察として、脱炭素先行地域に環境省より選定された、上士幌町と鹿追町を10月18日に視察しました。

上士幌町は、「未来へつなぐ持続可能なまちづくり」をテーマに、ゼロカーボン上士幌町の実現と、スマートタウンに取り組んでいきました。特に、家畜のふん尿処理から発生するメタンガスを利用した、バイオガス発電や、公共施設を利用した大規模太陽光発電の再生可能エネルギーを最大限地産地消するため、「かみしほる電力」による地域への電力供給を行っていました。また、公用車両のEV・PHEVの導入の実施と、現在、自動運転バスの実用化を目指すとともに、畜産バ

イオマスを核とした資源循環と、エネルギーの地産地消のまちづくりを進めていました。

鹿追町は、多様なエネルギーの循環強化に向け、地域創生モデルを目指して、バイオガスパラントによる、再生エネルギーの二酸化炭素排出量を2030年までには、48%削減を目標に取り組まれていました。また、2017年12月には、国内初の家畜ふん尿バイオガスを原料とした水素製造供給施設で、水素エネルギー活用事業を行っていました。

脱炭素化に向けた、水素自動車の購入や、一般家庭等の省エネ家電製品買い替え（冷蔵庫）への補助金を導入し、脱炭素先行地域づくりのモデルとしての見本を示され、日常生活の中で取り組まれていることに感銘を受けました。



▲ 鹿追町バイオガスパラント敷地内の水素ステーション

当町のバイオガスパラントにおける付加価値の課題についても、勉強になる視察となり、これからの農業の持続的な成長と、臭気及び水質等の良好な生活環境を確保していく対策が必要となります。よって、エネルギー自給率の向上に向けて、今後、脱炭素化社会を強く推し進めていく必要があることを、この視察を通じて感じられました。



陸別中学校生徒が模擬議会と体験

～中学生の想いを町政に～

中学生模擬議会が10月7日に議場で行われ、次代を担う中学生が模擬議会の体験を通して、地方自治の仕組みや町議会の役割などを学びました。

緊張した面持ちながらも、代表者が議員席から「除雪対策」「横断歩道設置」「子育て支援の充実」「陸別の魅力や特産品をインターネットでPR」「自然を生かした観光スポット」などについて質問し、町の管理職等が分かりやすく答弁しました。

▶ 議員席に座る中学3年生（傍聴席で見守る2年生）



議運委員長へ

議員の仕事等を質問

【陸中議員来校】

陸別中学校の5時間目の授業において、生徒からの質問に議会議員が回答する「議員来校」が9月26日に行われました。

生徒からは、「議員の仕事のやりがい」、「どのぐらい町の課題を解決しているか」、「町の情報はどこから入るのか」、等々の質問があり、多胡議会運営委員長も生徒からの質問に対して、真剣な表情で回答していました。



▲ 中学生からの質問に回答



《町長より一言》

我々がたまに見過ごしていることも、皆さんの視点で色々なことを出していただき、今までで一番充実していて緊張感のあるやり取りだったと思います。

皆さんから提案していただいたことを、少しでも行政に取り入れていきたい。また、皆さんがもう少し町政に関われるような方策を何か考えたいと、今日のやり取りを通じて感じました。



2年生



長屋雪菜さん



(撮影時のみマスクを外しています)

模擬議会で出た質問にしっかりと納得できるような答えを出すために、事前に様々なことを調査しているんだな、と思いました。議員の人達が常に緊張感をもって議会に臨んでいることがよくわかりました。また議会の傍聴を行いたいです。

3年生



羽藤陽向さん



(撮影時のみマスクを外しています)

私は、今ある公園の遊具の設置について提案しました。私達は、それぞれ考えの似ている人で集まって、今の町の現状について調べました。陸別の将来や、地域の活性化のため、皆でいろいろ考えましたが、いざ本番となると、緊張や担当の方々の納得のいく説明で、考えていた再質問はできませんでした。ですが、これをきっかけに地域について知れたので、とても勉強になったと思います。

条例・その他の審議結果

件名	審議結果
第2回臨時会（7/25） ● 陸別町印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例	可決
9月定例会（9/6～13） ● 固定資産評価審査委員会委員の選任について ● 教育委員会委員の任命について ● 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例 ● 陸別町特定公共賃貸住宅設置条例の一部を改正する条例	同意 同意 可決 可決

可決した意見書

● 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

委員の任命

● 固定資産評価審査委員会委員に、分線の依田美實さん（再任）を任命することに同意しました。
 ● 教育委員会委員に、大通の小木育子さん（再任）を任命することに同意しました。

北海道町村議会

議長会表彰

議員として15年以上在籍し、地方自治の振興と発展に尽くされたとして、多胡議員が北海道町村議会議長会から、自治功労表彰を受賞し、9月6日に議場で表彰状が伝達されました。



第2回臨時会

令和4年7月25日に、第2回臨時会が開かれ、条例案1件、補正予算案1件を可決しました。

令和4年度 各会計補正予算

会計名	補正額	総額
一般会計	377万円	52億3,776万円

議会の動き

【9月】

- 2日 議会運営委員会
- 6日 9月定例会
- 7日 議員協議会
- 7日 総務常任委員会
- 7日 産業常任委員会
- 13日 9月定例会
- 13日 議会運営委員会
- 13日 議会運営委員会（広報編集会議）

【10月】

- 4日～5日 総務常任委員会 道内行政視察（上川町、伊達市）
- 13日 議員協議会
- 13日 産業常任委員会 産業常任委員会 所管事務調査
- 18日 産業常任委員会 管内行政視察
- 24日 議会運営委員会（上士幌町、鹿追町）
- 24日 議会運営委員会（広報編集会議）

次回の定例会は12月に開催されます。

詳しい日程等は議会事務局にお問い合せ願います。皆さんの傍聴をお待ちしております。



陸別町議会 ホームページのご案内



【陸別町議会ホームページ】
<http://www.rikubetsu.jp/gikai/>